



諏訪清陵SSH便り

諏訪清陵高等学校
5月号
平成26年度第2号
(平成22年度指定)

走査電子顕微鏡（SEM）の運用が始まりました

～ 本校OB 原雅幸氏に電子顕微鏡を寄贈していただきました ～

☆ SEM週間（5月26日～31日）走査電子顕微鏡を使ったミクロの世界の観察実施 ☆



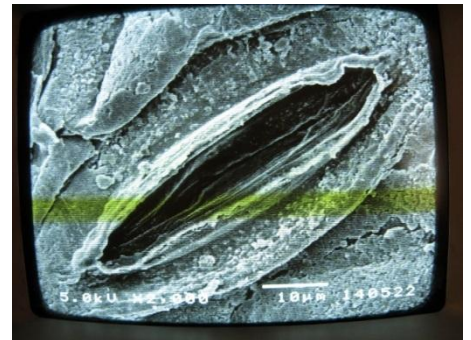
本年度4月に、本校OBで元日本鱗翅学会員・元日本蝶類学会員の原雅幸氏(94)より走査電子顕微鏡（SEM）を2台寄贈していただきました。

1台は原氏が30年ほど前から、ライフワークである蝶卵の微細構造の研究のために活用されてきたもので、現在でも現役ですが中学棟の1階ロビーに動態展示させていただきました。もう1台は新たに購入寄贈していただいた顕微鏡です。5月下旬に教職員が納入業者技術者を講師に操作実習を受けたうえで、生徒とともに活用し始めました。

5月22日から31日の一週間は「SEM週間」と銘打って、附属中学校と高等学校希望生徒が、電子顕微鏡を活用して、いろいろな資料を最大50,000倍に拡大して観察したり、顕微鏡を寄贈していただいた原雅幸氏の講演会を聞きました。

ムラサキツユクサの葉の気孔、タンポポの花の雌しべの柱頭、マツの花粉などを観察しましたが、電子顕微鏡のブラウン管に拡大された試料の画像が表示されるたびに大きな歓声があがりました。

撮影した資料の写真は、中学棟1階等に展示して同級生や先生方に見ていただいています。



☆ 原雅幸先生に「私の蝶人生と三澤勝衛先生」という講演をしていただきました ☆



5月29日(木)には、電子顕微鏡を寄贈していただいた原雅幸氏を本校附属中学校にお招きして、「私の蝶人生と三澤勝衛先生」という演題で講演をしていただきました。

諏訪中学校に入学し、多様な興味関心と才能を持った先輩、同級生、そして恩師三澤勝衛先生との出会いから蝶の研究の道に入られたそうです。その後、大変な努力をされて大学に進学され教職に就いたが、1年足らずで兵役のため東南アジアに滞在することになったこと、そのような状況下でも、現地の言葉とフランス語を習得して通訳として活躍する傍ら、蝶の研究を続けたこと、その後復員してから世界30か国以上を蝶を求めて歩き、晩年は電子顕微鏡を用いて蝶卵の微細構造に焦点を当てた研究を実施して、図鑑に纏め上げられたことなどを、熱く講演していただきました。

「君たちと同じ年に始めた蝶の研究。諸君、これから出発だ。あっぱれと言えるように、成果をあげてほしい。」とメッセージを生徒諸君は原先生からいただきました（清水ヶ丘便りJr.より）。